

平成29年度第2回瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議 議事録

開催日時	平成30年2月13日(火) 午前9時から午前10時45分まで
参加者	委員：別紙委員名簿のとおり 事務局：健康福祉部長、高齢者福祉課長(司会)、地域活動支援室長 高齢者福祉課長補佐、地域支援係長、地域支援係主査、前田主事、高木主事
場所	市役所東庁舎4階大会議室
内容	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 総合事業の進捗状況について</p> <p>[報告]</p> <p>事務局からの報告</p> <p>別添資料1に基づき報告。</p> <p>[協議]</p> <p>質疑なし</p> <p>◎ 総合事業の現状と、今後の取組みについて、委員の理解が得られた。</p> <p>(2) 平成29年度下半期生活支援コーディネーター実績報告</p> <p>[報告]</p> <p>山城コーディネーターからの報告</p> <p>別添資料2に基づき報告。</p> <p>[協議]</p> <p>委員からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物支援のニーズは今後も増え続けることが予想され、支える体制づくりが求められている。 ・ 地域住民から身勝手と思われるようなニーズを訴えられることもあり、ニーズ把握には注意が必要。 ・ 地域団体間で連携することで、行政に頼る前に地域で問題を解決できるような体制づくりが必要。 ・ 老人クラブでは、地域の見守り活動を行っており、地域からのニーズも高いが、老人クラブ入会率が伸びないという問題を抱えている。 ・ 瀬戸市は交通アクセスの課題についての訴えが多く、市や地域団体による支援を充実し、周知していく必要がある。 ・ 地域課題を解決するため、今後も、生活支援コーディネーターが触媒となり、様々な主体による地域支援体制の枠組みを構築していく必要がある。

◎ 第1層生活支援コーディネーターが、地域資源やニーズの把握、地域課題の抽出に向けた活動に積極的に取り組んでいることについて、委員の理解が得られた。

(3) 第2層生活支援コーディネーターの配置について

[説明]

事務局及び山城コーディネーターからの説明

別添資料3に基づき説明。

[協議]

委員からの意見

- ・ 新旧の住民間で地域における取組みへの温度差が生じることがある。今後、生活支援コーディネーターが、より地域に根差した活動をしていくうえで、そのような温度差を意識していく必要がある。

◎ 第2層生活支援コーディネーターを、瀬戸市社会福祉協議会へ委託し、3つのモデル地域に配置することについて、委員の同意が得られた。

3 その他

[説明]

事務局からの説明

別添資料4に基づき、今後のスケジュールを説明。

今回は、平成30年度10月頃の開催を予定。

4 閉会